

日 時 平成19年10月11日(木) 2校時  
 場 所 春日北小学校 体育館  
 対 象 2年2組児童(38)名  
 指 導 者 T1:善 理右彦(教育センター所員)  
 T2:野口 麻由美(春日北小学校)

1 単元名 「つくるの大すき、あそぶの大すき」

2 単元について

(1) 児童の実態

本学級の児童は、1年生のとき「どんぐりまつり」の中で季節の自然の素材を使って遊んだり、こま作りや飾り作りを楽しんだりしている。また、国語科と関連した「うごくおもちゃづくり」では、身近にある物を活用し、おもちゃを作って遊ぶ経験をしている。学習に入ると、自分で考えたおもちゃ作りに向けて、積極的に材料を集め、時間を忘れて製作に没頭する姿が見られた。

本学級の児童に「工作(何かを作ること)は好きですか。」という質問に対して、全員が「大好き」若しくは「好き」と答えている。また、「自然や家にある材料でおもちゃや遊ぶものを作ったことがありますか。」という質問に対して、36名の児童が「ある」と答えた。「ある」と答えた児童が作ったものは、ストローロケット、車、船、くわがた、どんぐりロケット、トントンずもう等が多かった。さらに、「友だちと遊ぶことは好きですか」という質問に対して、ほぼ全員が「大好き」若しくは「好き」と答えている。身近にある物で工作をしたり友達と遊んだりすることは好きであるが、友達と協力しながら、遊ぶ物を作り上げたり遊び方を工夫してみんなで遊んだりした経験は多くないと考えられる。

(2) 単元観と教師の願い

本単元は、学習指導要領の内容(6)を扱った学習で、子どもの身の回りの自然を利用したり、身近にある物を使ったりなどして、遊びをつくり出す楽しさや夢中になって遊ぶ楽しさを味わえるようにするものである。また、友達と一緒に遊ぶために遊び方を工夫したり、約束やルールを作ったりして、友達とよりよいかかわりがもてるようになることを目指している。

本講座の学習では、身近にある遊びの素材として、傘袋を軸に活動を展開していく。単元の導入に当たり、膨らませた傘袋で自由に遊ぶ場を設定し、身近にある物(傘袋)の遊び道具としての可能性や素材の特性、友達と一緒に遊ぶ楽しさを全身で感じ取らせたい。そして、その楽しさを、意欲的に活動を継続していく原動力にするとともに、「身近にある物を使ってみんなで楽しく遊ぶ」という単元のめあてにつないでいきたい。また、活動でかかわる対象を絞り込むことにより、「工夫」を「対象そのものに対する工夫」と「あそび方(遊びのルール)に対する工夫」という2つの視点で焦点化し、活動の中で芽生える児童の様々な気付きを共通の関心事として交流させたい。さらに、見取りの視点を基に、遊びの中の試行錯誤の過程で芽生える児童の様々な気付きを大切にしながら評価・指導・支援していきたい。単元の終末では、自分の成長という視点で活動を振り返らせ、児童一人一人の工夫や成長を認め、賞賛し、次単元「北っこフェスタにさんかしよう」<sup>(1)</sup>への意欲につなげたい。

(1) 保護者や地域の方を招き、学習発表の場として開かれる学校行事(お祭り)の名称。

### 3 単元の目標

身近にある物を使って遊んだり遊ぶものを作ったりする活動を通して、遊びを工夫してみんなで楽しく遊ぶことができるようにする。

### 4 評価規準

	ア 生活への関心・意欲・態度	イ 活動や体験についての思考表現	ウ 身近な環境や自分についての気付き
単元の評価規準	身近にある物に目を向け楽しく遊ぼうとしている。	身近にある物を使って遊びを工夫し、みんなで楽しむとともに、それを表現できる。	身近にある物を使うなどして遊べることや、みんなで遊ぶと楽しいことに気付いている。
単元における具体的な評価規準	物と一体になり夢中になって遊ぼうとしている 身近にある物に関心をもち、楽しい遊びを考えたり材料をそろえたりして、遊びを作ろうとしている。 友達と一緒に遊ぼうとしている	身近にある物の特徴や性質を生かして遊びを考え出すことができる。 身近にある物を使って、遊びを楽しくする物を作ったり、遊びを工夫したりすることができる。 競い合ったり力を合わせたりして友達と一緒に遊ぶことができる。 工夫して作ったりみんなで遊んだりしたことや楽しかったことなどを表現することができる。	身近にある物を使って、遊ぶ楽しさに気付いている。 身近にある物を使って、遊ぶものを作ったり、遊びを工夫したりする楽しさに気付いている。 遊びを通して友達の良さや自分との違いなどに気付いている。

### 5 学習過程と評価計画（全10時間）

時配 ( )	主な学習活動	教師の指導・支援・留意点	評価規準			評価資料 評価方法
			関心 意欲 態度	思考 表現	気付き	
であう (2)	1 傘袋で遊ぶ。 (1)膨らませた傘袋で遊ぶ。  (2)楽しかったことやこれからやってみたいこと	膨らませて飛ばしてみせることで活動への意欲を高める。 児童と一緒に遊びながら身近な物で遊ぶ楽しさに気付かせる 児童の思いに共感しながら、次の活動のめあてにつなげる。				行動観察  学習カード

	を出し合う。				
おこなう	2 傘袋がもっと遠くまで飛ぶように工夫して遊ぶ。				行動観察
	(1) 発泡トレーを使って、傘袋がよく飛ぶように工夫して遊ぶ。	自由に使ってよい材料を十分に用意しておく。 児童と一緒に遊びながら、一人一人の工夫を認め、支援する。			
(2)	【本時 4/10】 (2) もっともっとよく飛ぶように工夫をする  ・活動を振り返り、どのような工夫ができたか伝え合う。	工夫を深めさせる視点をもたせるために、傘袋を飛ばし比べて見せる。 児童の工夫を観点ごとに整理しながら掲示し、たくさんの工夫ができたことを実感させる。			行動観察 学習カード
おこなう	3 傘袋を使った遊び(ゲーム)を考えて遊ぶ。				話し合いの場面の観察
	(1) 身近にある物を使って、傘袋を投げて遊ぶゲームを遊びながら考える。	膨らませた傘袋を投げる・みんな楽しく遊べる、という2つの条件を提示し、遊び方の工夫に目を向けさせる。			
	(2) 互いのゲームで遊び、みんなを楽しむ。	遊び方にどんな工夫があるのか、という視点をもたせて活動させる。			行動観察
(5)	(3) 友達が考えた遊びの面白いところを伝え合い、活動を振り返る。	気付いた工夫や面白さを付箋に書かせ、友達の班の遊び紹介カードに貼らせる。			学習カード
ひらく	4 活動を振り返る。				話し合いの場面の観察 学習カード
(1)	(1) 学習カードを読み返し、これまでの活動を振り返る。	活動を通して、分かったこと、できるようになったこと、みんなで遊んだ楽しさ等の視点で振り返らせる。 みんな楽しく遊べたことや一人一人の成長を称賛し、北っ子フェスタへの意欲につなげる。			